

究をしたいけど、子供もいるし、経済的な事情もあってなかなか思うような研究ができないとこぼしたんです。そうしたら、メルシエ先生が、「そんな自分の理想通りのフィールドワークや研究が簡単にできる人は滅多にいないでしょう。だから貴女は、まず貴女の理想では、どういう研究やフィールドワークがしたいのかを、明らかにして書いてごらん下さい。そうして、現在与えられた状況の中では、その理想の全体像の中のどの部分をやるのかという事を明らかにして下さい。そしてそれをやればよいのです。」とおっしゃいました。つまり、これは人類学に限らず何の学問でもそうだと思うのですが、まず、自分が何をやりたいかを明らかにする、つまり立論が大事で、その上で、今できることを考える。そして、少しずつ理想に近づけていく。それが学問だという事を教えていただきました。私は、子供二人を育て、家事もやりながら、常に与えられた条件の中で何ができるかを考えながら、研究を続けてきました。でも振り返れば、いろいろ自分ではどうしようもない出来事がたくさんあります(例えばお話ししたように、サバティカルを半年頂いた時に、ちょうど夫が難病に倒れ、海外調査ができないことは残念でしたが、でも一番これから自分の研究成果を纏めるといふ時期に病に倒れた夫も気の毒でした)。アルジェリアの調査も、アマジグの春事件で、調査許可が貰えなかったり、内戦が始まって10年間はとても調査に行ける状態ではなかったりもしましたし。中東のように戦火に巻き込まれたり、大災害にあったり。私が『イトコたちの共和国』を翻訳した、ジェルメヌ・ディヨンのように完成していた博士論文をドイツのゲシュタポに持ち去られ、「夜と霧」と呼ばれた有名な、入ったら出られないといわれる収容所に入れられながら一命をとりとめ(彼女の母親はそこで亡くなります)、その体験を *Ravensbrück* という本に纏めて賞をもらい、その後、若いころ調査をしたアルジェリアの独立戦争の時に、ミッテラン大統領に頼まれて、「アルジェの闘い」に出てくる、アルジェの闘士と会談したりして活躍した人類学者もいますし、本当に人生は、何が起るかわかりません。でも日々今できることをやって行くのが人間ですし、研究者の生き方だと思います。

私も歳をとりましたが、カビリーの村や、メディナの調査資料を何らかの形で纏めるといふライフワークをまだ諦めてはいません。この度は、こうやって皆さまの前でお話することが出来、自分のこれまでの研究を振り返る機会を与えて頂いたことは大変ありがたいことでした。イスラーム地域研究センターの先生方と院生・学生の皆さんに、心からお礼を申し上げます。有難うございました。

宮治美江子先生——業績——

1964年

・『マヤーグアテマラ・ホンジュラス・ユカタン』(アンリ・スティールラン著、増田義郎と共訳)、美術出版社、1964年9月、【翻訳書】

1975年

・「大カビリー地方(アルジェリア)の村落における対仏労働移動の実態とその影響」日本アフリカ学会第12回学術大会、於京都大学、1975年5月、【学会・研究会報告】
・「揺れ動くアルジェリアの農村社会—出稼ぎ村の実態調査報告」『中東経済研究所報』No. 4、16-22頁、1975年10月、【論文等】

1976年

・ *L'Emigration et le Changement Socio-Culturel d'un Village Kabyle (Algérie)*, *Studia Culturae Islamicae*,

- No. 6, (単著) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1976年3月、【著書・編著】
- ・『人類学と植民地主義』(ジェラルド・ルクレール著、宮治一雄と共訳)、平凡社、1976年3月、【翻訳書】
 - ・「アフリカの都市化における voluntary associations の役割」『発展途上国の都市化』(林武編)、177-207頁、アジア経済研究所、1976年8月、【論文等】
 - ・「アフリカ都市の研究」『発展途上国の都市化』(林武編)、305-317頁、アジア経済研究所、1976年8月、【論文等】

1977年

- ・「アトラスのベルベル人」『民族探検の旅 第6集アフリカ』(川田順造編)、24-25頁、学習研究社、1977年、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「書評：片倉もところ著『Bedouin Village』東京大学出版会」『現代中東研究』Vol. 1, No. 4、84-88頁、中東経済研究所、1977年4月、【書評】
- ・『アマサリクーエスキモーと文明』(訳書、ロベール・ジェサン著)、思索社、1977年5月、【翻訳書】
- ・「タオス・アムルーシュ」15頁、「ジハン・エル＝サダト」137-138頁、「アジア・ジェバル」146-147頁、「クローディーヌ・ショレー」160頁、「鈴木秀子」168頁、『スーパーレディ 1009—21世紀を孕む女たちのカタログ 上巻：阿部定からスーザン・ソングタグまで』(木幡和枝・松本淑子編)、工作舎・フォーラムインターナショナル、1977年12月、【著書・編著】
- ・「日の沈む国から—現代アルジェリアの女性たち」『世界の女性史第14巻 中東・アフリカ II 閉ざされた世界から』(共著、板垣雄三編)、221-264頁、評論社、1977年11月、【著書・編著】

1978年

- ・「Emigration et Société: la processus des changement structuraux d'un village kabyle,» *Senri Ethnological Studies, No. 1, Africa 1*, pp. 105-130、1978年、【論文等】
- ・「ジェルメーヌ・ティヨン」33頁、「ファイルーズ」92頁、「ルース・ベネディクト」116-117頁、「マーガレット・ミード」148頁、『スーパーレディ 1009—21世紀を孕む女たちのカタログ』下巻：ローザ・ルクセンブルグから山口小夜子まで(木幡・松本編)、工作舎・フォーラムインターナショナル、1978年1月、【著書・編著】
- ・「5年ぶりのアルジェ：連載アルジェリア便り(1)」『倫社・政経研究』第12号(通巻124号)、8-9頁、山川出版社、1978年3月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「コーランの民：連載アルジェリア便り(2)」『倫社・政経研究』第13号(通巻125号)、6-7頁、山川出版社、1978年5月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】

1979年

- ・「多言語併用の困難：連載アルジェリア便り(5)」『倫社・政経研究』第17号(通巻129号)、10-11頁、山川出版社、1979年1月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「クスタスとハシマ：連載アルジェリア便り(6)」『倫社・政経研究』第18号(通巻130号)、13-14頁、山川出版社、1979年3月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「Ethnic か region か—アルジェリア社会の地域性をめぐって」『地域開発』79-7号、7-14頁、地域開発センター、1979年7月、【論文等】

1980年

- ・「国民社会の形成と都市—村落関係の変容—西アルジェリアの地方都市ネドロマの場合」『アフリカ社会の形成と展開』(共著、富川盛道編)、315-354頁、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1980年、【著書・編著】
- ・「出稼ぎとマグレブ社会—アルジェリアのカピリーの事例から」『シンポジウム・中東の社会変化とイスラームに関する総合的研究—報告と討論の記録2：社会分科会』27-34頁、44-56頁、国立民族学博物館、1980年3月、【論文等】【学会・研究会報告】
- ・「マグレブにおけるベルベル人」『シンポジウム・中東の社会変化とイスラームに関する総合的研究—報告と討論の記録7：アラブ分科会』46-60頁、国立民族学博物館、1980年3月、【論文等】【学会・研究会報告】

1982年

- ・「ベルベル」『イスラーム事典』平凡社、1982年3月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】

1983年

- ・「チュニジアの都市化と最近のメディナの社会文化変容」『アジア・アフリカにおけるイスラーム化と近代化に関する調査研究』No.7、38-64頁、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1983年3月、【論文等】
- ・「北アフリカ、カピリー地方—出稼ぎの村」『季刊民族学』No. 24、122-130頁、民族学振興会、1983年4月、【論文等】
- ・「チュニス・メディナの家族—チュニジアの都市化とメディナの社会文化変容調査報告」日本民族学会第22回研究大会、於埼玉大学、1983年5月、【学会・研究会報告】
- ・「チュニジアの都市文化におけるアンダルス文化の影響」第7回地中海学会大会、於成蹊大学、1983年6月、【学会・研究会報告】
- ・「チュニジアの都市文化におけるアンダルス文化の影響：第7回地中海学会大会発表要旨」『地中海学会月報』63号、4頁、1983年10月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「都市型社会と高齢者問題—一定年前後の生活と意識の諸相をめぐって」『高齢化社会の市民—高齢者の生きがいと社会参加に関する調査報告書』24-34頁、東京都生活文化局、1983年10月、及び『地域開発』83-12号、22-29頁、地域開発センター、1983年12月、【論文等】
- ・「パリのアルジェリア人移住労働者家族の適応と社会的ネットワーク」『民族学研究』第48巻3号、275-310頁、1983年12月、【論文等】

1984年

- ・「メディナの人類学」『現代の人類学2』(現代のエスプリ別冊)、131-167頁、1984年1月、至文堂、【論文等】
- ・「出稼ぎと族的結合—カピール人の場合」『第4回中近東センターシンポジウム：中近東・イスラーム社会における族的結合』於中近東文化センター、1984年5月、【学会・研究会報告】
- ・「アーシューラ祭礼の多義的性格とマグリブ文化」第38回日本人類学会・日本民族学会連合大会、於東京大学、1984年11月、【学会・研究会報告】

1985年

- ・「カビリーの出稼ぎ村」『国際協力』2月号、34-35頁、国際協力事業団、1985年2月、【エッセイ、その他】
- ・「アシューラ・Ašūra 祭礼の多義的性格とマグリブ文化—チュニスとカビリーの事例を中心に」『民族學研究』第49巻4号、381-387頁、日本民族学会、1985年3月、【論文等】
- ・「チュニス」『大百科事典』925頁、平凡社、1985年3月、【辞(事)典項目】
- ・「社会と生活7：海外出稼ぎ民」『黒い大地の鼓動・アフリカ理解のために』（読売新聞文化欄）、1985年3月9日、読売新聞社、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・『異文化環境におけるムスリム女性—パリ地域におけるアルジェリア人女性の場合』於国際文化会館、1985年4月8日、【講演】
- ・「ベルベル」『大百科事典』630-631頁、平凡社、1985年6月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「出稼ぎと族的結合—カビール人の場合」『中近東・イスラーム社会における族的結合』中近東文化センター研究会報告 No. 5、178-192頁、1985年7月、【論文等】
- ・「1. 北アフリカ」『日本民族学の回顧と展望：第II部地域編9. アフリカ』（日本民族学会50周年記念出版）、1985年9月、【論文等】
- ・「タフスト・イマジゲン（ベルベルの春）—アルジェリアのベルベル人問題」『文化人類学2 民族とエスニシティ』166-180頁、アカデミア出版会、1985年12月、【論文等】
- ・「座談：エスニシティ研究の現在（綾部恒雄・川田順造・二宮宏之と行った座談の記録）」『文化人類学2 民族とエスニシティ』108-140頁、アカデミア出版会、1985年12月、【論文等】

1986年

- ・「地中海の南北問題と女性」第10回地中海学会大会、於三重大学、1986年6月、【学会・研究会報告】
- ・「イスラーム教徒は四人妻？」『エナジー小事典7：世界女性史小事典』（原ひろ子編）、21-22頁、エッソ(株)広報部、1986年7月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「ムスリム都市チュニス—近代化とイスラーム精神」『週刊朝日百科・世界の地理97：アルジェリア・チュニジア』79-81頁、朝日新聞社、1986年8月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「文化人類学のテレビ・ラジオ思索番組をめぐって」『第1回放送大学国際シンポジウム：遠隔地教育をめぐる国際シンポジウム』於放送大学、1986年10月、【学会・研究会報告】
- ・「地中海地域の南北問題と女性：第10回地中海学会大会要旨」『地中海学会月報』94号、5頁、1986年11月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「ムスリムの自然観—カビール人の事例から」『講座イスラーム4 イスラーム—価値と象徴』（共著、板垣雄三編）、55-83頁、筑摩書房、1986年12月、【著書・編著】
- ・「アルジェ」「アルジェリア」「カイラワーン」「カスバ」他『エナジー小事典8：地中海小事典』エッソ(株)広報部、1986年12月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】

1987年

- ・「新春ビック対談：これからの子育てと保育」（斎藤十朗厚生大臣との対談）『保育通信』12・1月号、全国私立保育園連盟、1987年1月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「アルジェリア人」「カビール」「サヌーシー」「ジェルバ島民」「シャウィヤ」「ドラー」「ハデンドア」「パレスチナ人」他17項目『文化人類学辞典』弘文堂、1987年2月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】

- ・「アルジェリア、カピリー地方における政治・社会組織と慣習法」『法と政治の人類学』(共著、大森元吉編)、179-206頁、朝倉書店、1987年3月、【著書・編著】
- ・「5ベルベル文化とイスラーム—北アフリカ」『アフリカ論—人間と文化の原点を求めて(放送大学教材)』(川田順造編)、56-67頁、放送大学教育振興会、1987年3月、【論文等】
- ・「ムザブについて」『月刊みんぱく』24頁、1987年3月号、【エッセイ、その他】
- ・「異文化に学ぶ11・カピリー、アルジェリア」『毎日新聞・文化欄』1987年4月23日、毎日新聞社、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「ナワル・エル・ムータワキル」「商業と女性」「かくも長き手紙」他6項目『読む事典・女の世界史』(原ひろ子他編)、新曜社、1987年7月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・«North African Study in Japan»『第2回ユーロ・アラブ夏期大学：世界のアラブ・イスラーム研究分科会』ヴェルダール・ホテル、ラバト、マルタ国、1987年7月、【学会・研究会報告】
- ・「ヴェールの隠すものと顕わすもの—集合表象としてのヴェール」『人々のイスラーム—その学際的研究』(共著、片倉もところ編)、343-365頁、日本放送出版協会、1987年9月、【著書・編著】
- ・「海外出稼ぎ民」「就職・失業」『アフリカ人間読本』(米山俊直編)、河出書房新社、1987年9月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「イスラーム伝統の二側面—マグリブ社会の事例から」『現代の社会人類学3 国家と文明への過程』(共著、伊藤・関本・船曳編)、139-162頁、東京大学出版会、1987年10月、【著書・編著】
- ・「ヨーロッパ・アラブ夏期大学に出席して」地中海学会10月研究会、1987年10月31日、於上智大学、【学会・研究会報告】
- ・「ジン」『エナジー小事典10:現代イスラーム小事典』(片倉もところ他編)、95頁、エッソ(株)広報部、1987年12月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】

1988年

- ・「書評：ファティマ・メルニーシー著ラトクリフ川政祥子訳『ハーレムの少女ファティマ』」北海道新聞書評欄、1988年、【書評】
- ・「男と女の生活圏」『NHK市民大学：女性と社会』(原ひろ子編著)、84-94頁、1988年1月、【論文等】
【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「カピリー：雨コートにも毛布にもなる男らしさの象徴(民族の知恵—防寒具)」『季刊民族学』43号、63-64頁、千里文化財団、1988年1月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「アラブ・イスラーム世界の女性研究—現状と課題」『イスラームの都市性研究会報告25』科研重点領域研究「比較の手法によるイスラームの都市性の総合的研究」事務局、1988年3月、【論文等】
- ・「都市の人間における普遍と個」『都市人類学に関する基礎研究報告書』千里文化財団、1988年3月、【論文等】
- ・「第2回ユーロ・アラブ夏期大学に参加して」『日本アフリカ学会会報』第19号、1988年3月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「共に生きるということ—人類学者の個人史」『季刊人類学』第20巻第2号、152-158頁、講談社、1988年6月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「k斑[宗教]・民族運動と都市研究会報告」『比較の手法によるイスラームの都市性の総合的研究』研究会報告編・第1号・補、1-7頁、1988年7月30日、【論文等】
- ・「中東の女性研究の現状と課題—アラブ・ムスリム社会の女性を中心に」『中東研究』8・9月号、12

-20 頁、中東調査会、1988 年、【論文等】

- ・「日本の国際化—文化人類学者の視点から」『地方自治の窓』第 25 号、48-51 頁、地方自治協会、1988 年 11 月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】

1989 年

- ・“Family and Social Network in New Urban Situation,” *International Symposium: Age of the City*, 於大阪国際交流センター、主催:大阪市、協力:国立民族学博物館、1989 年 3 月、【学会・研究会報告】
- ・「マグレブ文化の多元性」『三井グローバルアイ』No. 46, 5 月号、22-23 頁、三井物産広報室、1989 年 5 月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「アラブ・イスラーム世界の女性と現代」『学術月報』Vol. 42, No. 9、日本学術振興会、1989 年 9 月、【論文等】
- ・「新しい都市状況における家族と社会的ネットワーク」『国際シンポジウム:都市の時代—21 世紀の人類像—報告書』109-120 頁、千里文化財団、1989 年 9 月、【論文等】
- ・“Modern Muslim City and Family Change: a Tunisian Case,” in *Supplement of Proceedings of the International Conference on Urbanism in Islam*, 295-327 頁、1989 年 10 月 22-28 日、【論文等】
- ・“Modern Muslim City and Family Change: a Tunisian Case” *International Conference: Urbanism in Islam* (文部省重点領域研究による) 於中近東文化センター、1989 年 11 月、【学会・研究会報告】
- ・「イスラームの女性と現代世界」(国際理解講座)、滋賀県立婦人センター、1989 年 11 月 26 日、【講演】
- ・「ヴェール論の地平」『現代思想:総特集イスラーム、オリエンタリズムと現代』17 巻 14 号、134-142 頁、青土社、1989 年 12 月、【論文等】
- ・「現代のシェーラザードたち—『女たちの語るモロッコ』(翻訳:藪田美恵子)の解説」『現代思想:総特集イスラーム、オリエンタリズムと現代』17 巻 14 号、110-111 頁、青土社、1989 年 12 月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】

1990 年

- ・「中東の想像力と創造力」『中東研究』No. 339, 52 頁、1990 年 2 月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「アラブ・イスラーム世界における「聖」の構造—ハラームの概念をめぐって」『民族文化の世界 上巻:儀礼と伝承の民族誌』(大林太良教授退官記念出版、阿部年晴・伊藤亜人・萩原眞子編) 139-170 頁、小学館、1990 年 4 月、【著書・編著】
- ・「イスラームとマグレブ女性のゆくえ」『中東協力センター・ニュース』第 15 巻 8 号、38-43 頁、中東協力センター、1990 年 11 月、【論文等】

1991 年

- ・『イスラーム社会』(アーネスト・ゲルナー著、田中哲也・堀内正樹と共訳) 紀伊国屋文化人類学叢書、1991 年 3 月、【翻訳書】

1992 年

- ・「モロッコにおける女性の労働と<女性文化>の変容」日本民族学会第 27 回研究大会、於南山大学、1992 年 5 月、【学会・研究会報告】
- ・「マグレブ」『地中海とイスラーム(地中海学会企画)』朝日カルチャー・センター、1992 年、7 月 24 日、【講演】

- ・「北アフリカの女性とイスラーム」『月刊アフリカ (特集: アフリカにおける女性の現状)』Vol. 32, No. 8, 8-12頁、1992年8月、【論文等】

1993年

- ・“Family and Social Networks in New Urban Situations: A Comparative Perspective,” in *Humanising the City?: Social Contexts of Urban Life at the turn of the Millennium* (A. Cohen & J. Fukui eds.) pp. 163-183, Edingburgh Univ. Press, 1993、【著書・編著】
- ・「移住の人類学序説」『応用社会学研究』3号、1-26頁、東京国際大学社会学研究科、1993年3月、【論文等】
- ・「アラブ・イスラーム世界の女性と現代」『イスラームの都市性』(板垣雄三・後藤明編)、173-193頁、学術新書16、日本学術振興会、1993年6月、【論文等】
- ・「大学教員として」『シンポジウム: 高校時代をどう送るか』淑徳与野高校、1993年9月24日、【学会・研究会報告】
- ・「マグレブ系移民のネットワーク—フランス—アルジェリア国際移動とイスラーム」『ヨーロッパとイスラーム—共存と相克のゆくえ』(共著、梶田孝道編)、64-88頁、有信堂、1993年11月、【著書・編著】
- ・『アフリカの女性たちと暮らし』東京国際大学公開講座、於東京国際大学、1993年11月20日、【講演】
- ・『遠くて近い国—現代アルジェリアの女性たち』滋賀県立婦人センター、国際情報講座、1993年11月27日、【講演】
- ・『中東イスラーム地域の女性と現代』東京外語会文化委員会講演会、於半蔵門会館、1993年12月4日、【講演】

1994年

- ・« Participation Sociale des Femmes et Changements des Familles au Japon », *Table Ronde : Mutations socio-Economiques, Participation des Femmes et Changemnets Familial au Japon et en Tunisie* (日本チュニジア円卓会議)、於 CREDIF (Centre de Recherche, Documentation et D'information sur la Femme (女性資料・情報研究所)、1994年8月2日、【国際会議報告】
- ・「ヨーロッパのイスラーム—フランス」『講座イスラーム世界I イスラーム教徒の社会と生活』(共著、片倉もとこ編・板垣雄三監修)、345-384頁、悠思社、1994年11月、【著書・編著】
- ・「国民統合と文化葛藤—フランスのマグレブ系移民の場合」『民族の会おうかたち』(共著、黒田悦子編)、319-342頁、朝日選書516、朝日新聞社、1994年12月、【著書・編著】

1995年

- ・「海外研修レポート—アラブ・ムスリム研究所で」『TIU ニュース』1995年4月19日、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「チュニジアの都市と家族の変容: チュニス調査報告 II」日本民族学会第30回研究大会、於国立民族学博物館、1995年5月、【学会・研究会報告】
- ・「バルベル文化という鏡」『現代思想 特集: 回帰する地中海』209-223頁、1995年6月、青土社、【論文等】
- ・「女性の地位の比較—チュニジア・日本円卓会議」『季刊アラブ 特集: アラブの女性たち』5-7頁、1995年9月、【論文等】

- ・「女性」『イスラーム研究ハンドブック』講座イスラーム世界別巻（三浦徹、東長靖、黒木英充編）、263-270 頁、栄光教育文化研究所、1995 年 10 月、【論文等】
- ・“Women’s studies in the Middle East and Japanese Women Researchers,” The 1st Conference of Asian Confederation of Middel East Studies Associations: Commemorative Internaitonal Symposium, at Hankuk University of Foreign University, Seoul, Korea, October21, 1995、【学会・研究会報告】
- ・「中東地域の女性たちとの出会い（シリーズ私の 5 冊）」『中東研究』No. 402、38-43 頁、1995 年 10 月、【論文等】
- ・「北アフリカ料理に原点—クスクスとハッカ茶」『地中海学会秋期連続講演会—地中海の美と食—』ブリジストン美術館、1995 年 11 月 4 日、【講演】

1996 年

- ・「アラブ・ムスリム社会とジェンダー」『シンポジウム：21 世紀の＜中東地域研究＞を考える』（上智大学アジア文化研究所・中東学会共済）於上智大学、1996 年 12 月、【学会・研究会報告】

1997 年

- ・「書評：大塚和夫著『テキストのマフディズム—スーダンの土着主義運動とその展開』東京大学出版会 1995 年 7 月、255 頁」『民族学研究』62 巻 2 号、253-257 頁、日本民族学会、1997 年、【書評】
- ・「アラブ・ムスリム社会とジェンダー：文化人類学からの中東イスラーム地域研究」『シンポジウム：21 世紀の＜中東地域研究＞を考える』8-15 頁、「質疑討論：板垣、宮治、湯川参加」21-28 頁、上智大学アジア文化研究所、1997 年 3 月、【論文等】
- ・「巡礼とムスリム女性」朝日カルチャーセンター 1997 年講座『イスラーム世界と聖地—巡礼（ハッジ）と参詣（ズィヤラ）—』新宿住友ビル 48 階 16 号教室、1997 年 3 月 7 日、【講演】
- ・「民族を超えるもの—イスラームの宗教共同体と民族」『民族の生成と論理』（岩波講座 文化人類学 第 5 巻）（共著、内堀基光編）、265-302 頁、岩波書店、1997 年 6 月、【著書・編著】
- ・「情報ネットワーク社会と家族」『比較文明学会シンポジウム：現代文明と家族』（比較文明学会第 16 回年次大会）、於東京国際大学 1997 年 10 月、【学会・研究会報告】
- ・「フランスのムスリム」『シンポジウム：西ヨーロッパの中のイスラム教徒』（日本イスラム協会主催）、於慶応大学、1997 年 11 月 8 日、【学会・研究会報告】

1998 年

- ・「出稼ぎ労働者と地域—アルジェリア、カピリー地方の事例から」『地域の世界史 5 移動の地域史』（共著、松本宣郎・山田勝芳編）、227-255 頁、山川出版社、1998 年 3 月、【著書・編著】

1999 年

- ・「ベルベル人とベルベル文化」『アフリカ入門』（川田順造編）、111-116 頁、新書館、1999 年 3 月、【論文等】
- ・「北アフリカの女性の生活」『アフリカ入門』（川田順造編）、124-134 頁、新書館、1999 年 3 月、【論文等】
- ・「技術協力の人類学：異文化理解と自文化理解の狭間で—チュニジア人口教育プロジェクト（JICA）の事例から」日本アフリカ学会第 36 回学術大会、於京都大学、1999 年 5 月、【学会・研究会報告】

- ・『差別されるイスラーム、ヨーロッパのムスリム』PARC 自由学校、アジア太平洋資料センター、1999年7月17日、【講演】
- ・「女性の社会進出とヴェール：マグリブ（西アラブ地域）を中心に」『イスラームの女性とヴェール：イスラーム社会理解のために』、於慶応大学、1999年12月、【講演】

2001年

- ・「セーラム便り」『Jinsha Magazine』No. 2、7-9頁、2001年3月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・“Recent Social Change and Women in Japan and Tunisia” «*Tunisia-Japan: Cultural Dialogue*, » Beït Al-Hikma, Carthago, 3 May, 2001 【報告】

2002年

- ・「アーイラ」『家族形態(4 イスラムの)』『家族制度(イスラムの)』『歴史学事典 第10巻：身分と共同体』弘文堂、2002年、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「カピリー」『岩波イスラーム辞典』158頁、岩波書店2002年2月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「国勢調査・法制度に観られる人種・民族分類の比較研究—フランスの場合」『国勢調査・法制度に見られる人種・民族分類の比較調査研究』(科研成果報告書) 239-250頁、2002年3月、【論文等】
- ・「ベルベル」『新イスラーム事典』(監修：日本イスラーム協会・嶋田襄平・板垣雄三・佐藤次高)、440-441頁、平凡社、2002年3月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「イスラーム社会論」『大航海：特集 パレスチナー愛と憎しみの起源』44号、158-165頁、新書館、2002年10月、【論文等】

2003年

- ・「イスラームと女性—最近の動向から」アフリカ女性史に関する基礎的研究・研究会、於国立民族学博物館・地域研究企画交流センター、2003年2月27日、【学会・研究会報告】
- ・「ジェンダーと文化的多様性—文化人類学の視点から」国連大学グローバル・セミナー第3回金沢セッション『ジェンダー、発展と平和』於石川県青少年総合研修センター、2003年11月23日、【学会・研究会報告】

2004年

- ・「第1回 中東の家族生活と女性—マグリブ諸国を中心に」『中東理解講座：家族生活を通してみる中東』(コーディネーター兼講師)、国際交流基金市民青少年交流課、国際交流基金国際会議場 2004年1月27日、【学会・研究会報告】

2005年

- ・「大学生活と文化人類学との出会い」『Jinsha Magazine (特集：私の転機)』No. 6、19-21頁、2005年3月、【論文等】【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「特別講演：私の北アフリカ研究」『国際シンポジウム：交差するアジア・北アフリカ文化・科学技術』筑波大学北アフリカ研究センター開所シンポジウム、国際交流センター国際会議場、2005年3月15日、【講演】
- ・「文化人類学の立場から」『人口減少時代をどのように迎えるか—少子社会の比較文明学』比較文

明学会第 23 回シンポジウム、上智大学、2005 年 11 月 19 日、【学会・研究会報告】

2006 年

- ・「1. アマジグー言語と文化の尊厳とアイデンティティを求めて」『講座世界の先住民族—ファースト・ピープルの現在 04 中東』（共著、松井健・堀内正樹編、綾部恒雄監修）、30-58 頁、明石書店、2006 年 1 月、【著書・編著】
- ・『もっと知りたいマグリブ：基調講演』かすみがせき婦人会主催、於高輪プリンスホテル、2006 年 6 月 6 日、【講演】
- ・「ヨーロッパのイスラム—フランスのイスラムの事例を中心に」カリタス女子短期大学リレー講座『欧米とアラブ・日本とアラブの対話』2006 年 7 月 8 日、【講演】

2007 年

- ・「マグリブ（西アラブ地域）—クスクスとハッカ茶」『世界の食文化 10 アラブ』（共著、大塚和夫編、石毛直道監修）、231-291 頁、農山漁村文化協会、2007 年 2 月、【著書・編著】
- ・「カピール（アルジェリア）の暮らしと社会」『朝倉世界地理講座—大地と人間の物語 第 11 巻：アフリカ I』250-268 頁、朝倉書店、2007 年 4 月、【論文等】
- ・「チュニジア—チュニス・メディナの家族—マグリブ諸国を中心に」『地中海への誘い』（NHK 文化センター講座）、NHK 文化センター青山教室、2007 年 8 月 20 日 【学会・研究会報告】

2008 年

- ・「北アフリカとヨーロッパ」『季刊民族学：特集 ヨーロッパを逆照射する』32 巻 1 号、30-33 頁、千里文化財団、2008 年 1 月、【論文等】
- ・「マグリブへの招待—北アフリカの社会と文化」（宮治一雄・宮治美江子編著）、大学図書出版、2008 年 3 月、【著書・編著】
- ・「ひとはなぜ遊ぶのか」『Jinsha Magazine』No. 9、7-12 頁、東京国際大学人間社会学部、2008 年 3 月、【論文等】
- ・「自著を語る 54 『マグリブへの招待—北アフリカの社会と文化』大学図書出版 2008 年 3 月」『地中海学会月報』309 号、2008 年 4 月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「北アフリカ諸国とジェンダー」『女性フォーラム 10 周年企画：アフリカ研究とジェンダー—回顧と展望』アフリカ学会第 45 回学術大会、於龍谷大学、2008 年 5 月 25 日、【報告】
- ・「第 9 回 地中海を越えるアマジグ（ベルベル）系移民」国際交流基金 中東理解講座『国境を越える人々—中東における宗教と民族の諸相』国際交流基金国際会議場、2008 年 11 月 27 日、【学会・研究会報告】【講演】

2009 年

- ・「プロフの独り言：自文化理解と異文化理解の狭間で」『Jinsha Magazine』No. 10、4-8 頁、東京国際大学人間社会学部、2009 年 3 月、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「アラブの食文化—伝統とその未来」食の文化シンポジウム 2009 『「食」—その伝統と未来』（財団法人味の素の文化センター設立 20 周年記念）、於味の素グループ高輪研修センター、2009 年 11 月 7 日 【学会・研究会報告】

- ・「還流文明を求めて—北アフリカの事例から」比較文明学会第27回大会公開シンポジウム『収奪文明から還流文明へ』於立教大学、2009年11月28日、【報告】

2010年

- ・「序論」11-30頁、「(III章 労働ディアスポラ—出身地とのネットワークを中心に)第1章マグリブからフランスへのディアスポラ—アルジェリア移民の事例から」148-175頁、『叢書グローバル・ディアスポラ3 中東・北アフリカのディアスポラ』(宮治美江子編著・駒井洋監修)、明石書店、2010年、【著書・編著】
- ・「マグリブ地域のタジン鍋とクスクス鍋」『食文化誌 Vesta 特集：鍋の美味学—火味の道具だて』24-26頁、ドメス出版、2010年、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「アラブ食の文化—伝統とその未来」138-157頁、「ディスカッション」157-181頁、『「食」—その伝統と未来』(食の文化シンポジウム2009)、ドメス出版、2010年5月、【研究会報告】
- ・「北アフリカの都市文化におけるアンダルス文化の影響—チュニジアの事例を中心に」『地中海学講座 イスラームとヨーロッパの出会い(第4回)』朝日カルチャーセンター、2010年6月5日、【講演】

2011年

- ・「中東の地殻変動—チュニジアにおける民衆革命への動き」『現代思想 臨時増刊号 総特集：アラブ革命—チュニジア・エジプトから世界へ』164-171頁、2011年4月、【論文等】

2012年

- ・『イトコたちの共和国—地中海社会の親族関係と女性の抑圧』(訳書、ジェルメヌ・ティヨン著)、みすず書房、2012年3月、【翻訳書】
- ・「地中海のイスラーム家族について」『学士会会報:特集地中海』14-18頁、学士会、2012年7月、【論文等】
- ・「自著を語る69 ジェルメヌ・ティヨン著、宮治美江子訳『イトコたちの共和国—地中海社会の親族関係と女性の抑圧』みすず書房、2012年3月『地中海月報』354号、7頁、地中海学会、2012年11月、【エッセイ、その他】

2013年

- ・『アルジェリアから見たアラブの民衆革命—独立50周年を迎えたアルジェリア訪問から』「アラブ諸国の革命」朝日カルチャーセンター、朝日JTB/交流文化塾(新宿住友ビル)、2013年1月25日、【講演】
- ・『独立50周年を迎えたアルジェリアを訪れて—45年間のお付き合いを通して考えたこと』アルジェリア独立50周年記念連続講演(アルジェリア文化センター主催)、2013年4月、【講演】
- ・「Tunisian Revolution as viewed from Algeria」日本学術振興会2国間交流プログラム:チュニジア・日本交流プログラム、TJASSST2013:人文社会科学セッション報告、於チュニジア・ハマメット、2013年11月16日、【学会・研究会報告】

2014年

- ・「The Tunisian Revolution as viewed from Algeria」『IIET 通信』、136-139頁、東京国際大学国際交流

研究所、2014年3月、【論文等】

- ・『サハラの北と南—私の研究経歴から』日本アフリカ学会 50周年記念講演、於京都大学百周年時計台記念館、2014年5月25日、【講演】
- ・『チュニジア民衆革命と女性の地位の現在』公益法人俱進会セミナー講演、四谷玉盛ビル 301号、2014年7月5日、【講演】
- ・「34. アルジェリア研究 45年を顧みて」『日本アルジェリア友好の歩み』外交関係樹立 50周年記念誌(私市正年、スマイル・デベシユ、在アルジェリア日本国大使館編)、238-243頁、千倉書房、2014年8月、【論文等】

2015年

- ・「片倉もとこ先生との出会いとマグリブ(北アフリカ)女性の現在」『シンポジウム：片倉もとこ先生をフィールドワークする(パネル1「中東の女性は今」)』於国立民族学博物館、2015年3月29日、【学会・研究会報告】
- ・『サハラの北と南—私の研究経歴から』(日本アフリカ学会 50周年記念講演)『アフリカ研究』No. 86、21-29頁、日本アフリカ学会、2015年、【学会・研究会報告】

2016年

- ・「ファティマ・メルニーシさん追悼—アラブで第一人者のフェミニスト」『季刊アラブ』春号、28頁、2016年、【辞(事)典項目、エッセイ、その他】
- ・「第12章 イスラーム社会とジェンダー—マグリブ女性の事例を中心に」『変革期イスラーム社会の宗教と紛争』(塩尻和子編著)、286-313頁、明石書店、2016年3月、【著書・編著】
- ・「北アフリカにおける女性の就労行動の変化とジェンダー役割」『仕事の人類学—労働中心主義の向こうへ』(中谷文美、宇田川妙子編)、117-123頁、世界思想社、2016年3月、【論文等】
- ・「中東研究者が今考えること—戦争体験・アルジェリア独立・チュニジア市民の力」『中東と日本の針路—「安保法制」がもたらすもの』(共著、長沢栄治、栗田禎子編)、194-199頁、大月書店、2016年5月、【著書・編著】
- ・『チュニス・メディナの歴史と家族の変容』日本チュニジア友好協会公開講演会、於チュニジア大使館、2016年6月2日、【講演】